

第2号議案及び第3号議案

日本NPO学会 第12期理事会 組織運営委員会
組織運営委員会からの理事会提案審議事項

組織運営委員長
坂本治也

(1) 謝金の規定化について

背景：これまで非会員への謝金支払額にはとくに規定がなく、その都度、担当委員会の判断で謝金額が決まっていた。同一業務なのに謝金額が異なるのは望ましくないため、何らかの基準となる額を明文で定める必要がある。

提案内容：外部には公表しない内規の申し合わせ事項として、以下の内容を「非会員への謝金基準額」として明文で定め、理事会や各種委員会で情報を共有する。具体的な条文は別途考え、再度理事会に諮るが、以下の骨子をお認め頂きたい。

研究大会公開シンポジウム 基調講演者 5万円（税込、源泉徴収なし）
研究大会公開シンポジウム パネリスト 3万円（税込、源泉徴収なし）
研究大会一般セッション、学会学術企画 登壇者 1万5千円（税込、源泉徴収なし）
NPR 査読者 5000円（税込、源泉徴収なし）*理事会で承認済み

*いずれも非会員の場合。また、招へい者のステータスや登壇時間によって、金額に変化をつけることは可能。

また、研究大会事務局長、NPR編集主幹に対する謝金については、その時々執行部が対象者や財政状況も考慮しながら謝金額案を決定し、理事会に提案し、理事会の了承を得るものとする、ことも謝金規定に明文化する。

学会事務局長、学会事務局次長、研究大会アルバイトスタッフについては、とくに規定には定めない。

【参考資料】

2019年度実績

公開シンポジウム登壇者謝金 2万円×4名

研究大会事務局運営謝金 30万円（2年度にまたがる分）

次年度大会事務局運営謝金 15万円

第2号議案及び第3号議案

2020 年度実績

研究大会事務局運営謝金 15 万円

ウェビナー企画謝金 1 万 5 千円

次年度大会事務局運営謝金 36,750 円

2021 年度実績

研究大会事務局スタッフ謝金 95,050 円

公開シンポパネリスト 3 万円×4 名

公開シンポ著名人 5 万円

エクスカーショント謝金 1 万円×4 名

研究大会事務局スタッフ謝金追加 19,250 円

ウェビナー企画謝金 1 万 5 千円×2 名

2022 年度実績

公開シンポパネリスト謝金 2 万円

大会企画委員会企画招へい者謝金 1 万円×20 万円

ウェビナー企画謝金 2 万円×2 名

(2) シニア会員、実務者会員の会費値下げについて

組織運営委員会で審議した結果、シニア会員、実務者会員への会費値下げ、という方針はとらない、との結論に至った。

理由：シニア会員はそれなりの数が存在しており、一律に値下げすると学会財政に悪影響が出ること、実務者会員は定義づけが難しく、また値下げする根拠に乏しいこと、いずれの値下げ案も実施したところで会員拡大、財政状況の向上にはあまりつながりそうにないこと

【参考資料】

年齢がわかる会員 591 人中、65 歳以上会員は 123 人で 21%を占める

70 歳以上にすると、57 人で 10%を占める

代案：定年を迎えて安定的収入源がなくなったシニアの会員の方への一定の配慮は必要と考えられる。そこで、70 歳以上の一般会員は研究大会参加費（5000 円）を免除する（懇親会費は免除しない）、という方向性はあるのではないか。大会に積極的に参加してもらうことで、会員を続けるインセンティブにもなるはず。